

災害から 地域を守る

問い合わせ 地域安全課(☎7444)



消防団ってなに？

自らの地域は自らで守る

消防団は、市町村の消防機関で、その構成員である消防団員は、他に本業を持ちながらも、自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、消防防災活動を行っています。

消防団と消防署の違い

消防団の団員は、火災や災害時に自宅や職場から駆け付け、主に後方支援を行います。一方、消防署の消防職員は専任の職員として、24時間体制で消防に勤務しています。

藤岡市の消防団

藤岡市の消防団は、本団と14の分団から構成され、214人の団員がいます。平均年齢は37歳で、会社員や自営業を営んでいる人が多く、火事や災害時には現場に駆け付け消火活動や救助活動に当たります。平常時には、防災意識の啓発や、消火訓練、応急救護訓練などを行っています。



◀▲ 消防団員によるポンプ車訓練の様子



県内初の女性消防団「フレイムス」

市内14分団のうち、第10分団フレイムスは女性のみ15人で構成されている分団です。平成6年度に県内で初めての女性分団として発足しました。

火災の現場に出動することはありませんが、市民への火災予防広報活動をはじめ、応急手当普及員の資格を取得して、市民の皆さんに応急処理の方法を教える普通救命講習の実施や、1人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火の呼び掛けを行うなど、地域の安心・安全のために日常の防火・防災活動に努めています。

あなたのチカラを消防団に

現役消防団員の声

5月19日、藤岡市消防団の抱える課題を、現役の消防団員が自ら考える「第1回藤岡市消防団活動推進検討委員会」が開催されました。

会議の中では、「消防団はやりがいがある活動である一方、活動内容があまり知られておらず、『キツイ、大変』といったイメージが先行していることが、なり手不足の原因ではないか」といった意見が聞かれました。

若手団員の一人は「地域ために活動し、地域の人に感謝される活動で、とてもやりがいがある。入団前に考えていた消防団のイメージとは、良い意味で違っていた。」と話していました。

消防団の仲間になってみませんか？

あなたのチカラが消防団には必要です。会社員の人、自営業の人、主婦の人など、年齢・性別・職業問わず、いろいろな人が参加しています。消防団に興味のある人は、地域安全課が各分団へ問い合わせてください。



藤岡市消防団の紹介



▲ 第1回消防団活動推進検討委員会の様子

▶ 水防訓練で土のう作りをする消防団員

災害は突然やってきます

16月2日の降ひょう被害！

市内の被害状況

6月2日(休)午後6時ごろ、藤岡・神流・小野・美土里地区を中心とした市の北部に、最大でゴルフボール大(直径4~5cm)のひょうが降りました。この降ひょうによって、割れたガラスでけがをして病院で手当を受けた人が2人、下校中などにひょうが当たりけがをした人が87人いました。

市では、割れた窓ガラスや壊れた屋根など、雨漏りへの緊急対応として、降ひょうのあった6月2日の夜8時ごろから、ブルーシートの配布を始めました。6月21日現在で、2,606枚を配布しています。

学校では、合計206枚のガラスが割れ、最大で88枚ものガラスが割れた学校もありました。市教育委員会では、子どもたちの安全が確認できるまでの対応として、被害のあった学校のうち2校で、翌日の6月3日を休校とし、教師たちが割れたガラスの後片付けや、安全確認を行いました。休校となった2校は、6月6日(月)から登校を再開しています。

ガラスハウスやビニールハウスなど農業用施設が壊れたり、小麦・露地ナス・トマトなど収穫前の農作物が傷つくなど、市では、農業関係だけでも2億4,000万円以上の被害がありました。

災害は突然やってきます。いざという時のために、加入している保険の確認など、日頃から災害への備えを行っておきましょう。



▲ 市内に降った大粒のひょう



▲ ひびの入った車のフロントガラス



▲ 降ひょうで割れた学校の窓ガラス



▲ ひょうに当たった部分が傷んでしまったトマト